

サイエンスカフェ報告

第34回三省堂サイエンスカフェ〔日本家政学会シリーズ(2)〕が日本家政学会/日本家政学会関東支部の共催で行われました。

日時：2010年5月15日(土) 15:00~16:10

場所：三省堂書店神保町本店2階 UCC カフェコンフォート

テーマ：「着心地を科学するーひんやり感・蒸れ感の感知構造ー」

講師：文化女子大学大学院生活環境学研究科教授

田村照子 氏(元日本家政学会会長)

コーディネータ：東京新聞 論説委員 日比野守男 氏

内容：冷感・温感を生じるクールタッチ、ヒートテック等の機能繊維素材の着心地を、皮膚の冷・温・蒸れ感などの感知構造の視点から科学した。温感覚や冷感覚は、身体の部位によってどのように異なるのか、年齢によってどのように変化するかを講師らが開発した汎用型温冷感測定装置を用いて、マクロに捉えた結果を紹介した。更に、固有の受容器が見出されていない蒸れ感覚については、全身及び局所皮膚表面に異なるレベルの湿り空気を接触させた際の湿潤感覚の結果から、湿潤感の感知構造とこれに基づく衣服の着心地について議論した。

講師らが測定したたくさんのデータを用いての丁寧で分かりやすい解説に、会場の参加者らはうなずき、興味深気に聴いていた。衣服の着心地の研究の奥の深さに感嘆の声が上がり、若いお母さんや学生、サラリーマンなどからは、わが子や自分のための着心地のよい着衣についての質問が続出した。



三省堂書店神保町本店2階のUCCカフェコンフォートにそろそろ参加者が集まりだしました。



講師の田村先生が熱弁を奮っています。



熱心に聞き入る参加者。メモを取る参加者。



たくさんの質問が飛び交い、それに丁寧に答える田村先生。充実した1時間余りでした。